

# 目次

1.	セクション	1
	1.1. はじめに その1	1
2.	次に	2
3.	asciidoctor-diagramのテスト	3
	3.1. ditaaのテスト	3
	3.2. plantumlのテスト	4
	3.3. graphvizのテスト	6
4.	ソースコード	7

#### 1. セクション

= から始まる行はセクションの見出しになります。 ==, ===, … のように = を重ねるとレベルが1つ下がります。

#### 1.1. はじめに その1

- **1** これはNOTEのサンプルです。
- ☐ これはIMPOTANTのサンプルです。
- これはCAUTIONのサンプルです。
- **\_\_\_** これはWARNINNGのサンプルです。

# 2. 次に

あああああああああああああああああああああ。

図 1による。



図 1. close up the azarasi

# 3. asciidoctor-diagramのテスト

### 3.1. ditaaのテスト

図 2はditaaのサンプルです。 ditaaではascii文字のみ使用可能で日本語は無理っぽい。形式はpngのみ。

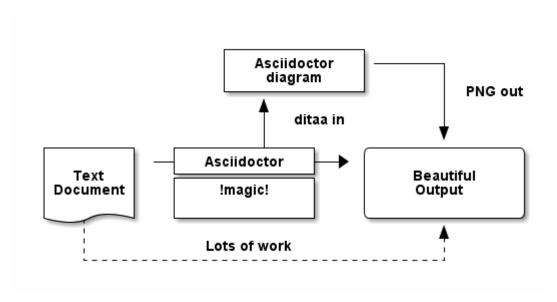


図 2. ditaa daiagram sample00

### 3.2. plantumlのテスト

種類をpngとすれば日本語(UTF 8)でも記述可能。svgとするときはascii文字のみで。 asciidoctor-pdfで使用している日本語フォントに合わせれば、svgでもOKの様子。

図 3はplantumlのサンプルです。

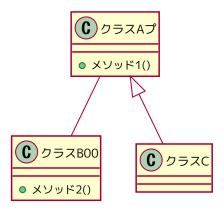


図 3. クラス図

#### 図 4はシーケンス図のサンプルです。

#### シーケンス図のサンプル

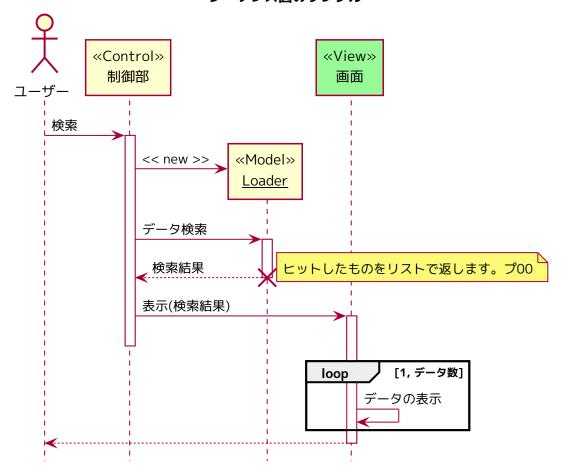


図 4. シーケンス図

# 3.3. graphvizのテスト

種類をpngとすれば日本語(UTF 8)でも記述可能。svgとするときはascii文字のみで。 asciidoctor-pdfで使用している日本語フォントに合わせれば、svgでもOKの様子。

図 5はGraphVizのサンプルです。

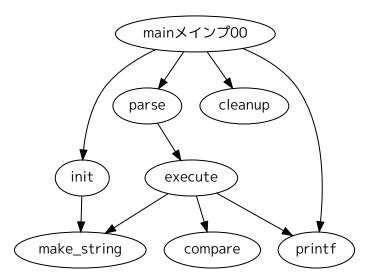


図 5. The graphviz block

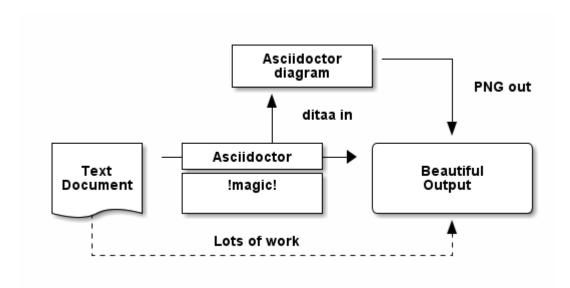


図 6. ditaa daiagram sample2

## 4. ソースコード

```
export default class MyComponent extends React.Component {
    render() {
        <div>Hello, World!</div>
    }
}
```